

## 神奈川県観光振興計画平成25年度事業実施結果の総合評価

## 総括

平成25年の延べ宿泊者数は目標値を下回る一方、外国人延べ宿泊者数は目標値を上回った。引き続き、地域資源の磨き上げを行い、県内外から多くの人を引きつける観光地づくりを進めるとともに、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催決定等を追い風として、今後も伸びが期待される外国人観光客の誘致促進を図っていく必要がある。

そのためにも、「医療・癒し」「教育」「音楽」「演劇」「商店街」など、これまであまり観光資源として捉えていなかった分野の地域資源を活用し、商店街観光ツアーなど、新たな観光魅力づくりをより一層進めていく必要がある。

また、地域経済は回復基調にある中、宿泊客の観光消費額は目標を達成したものの伸び悩んでおり、今後は、新たな観光商品の開発やPRの強化により、周遊型や滞在型の観光を促進することで、地域経済の活性化を図っていく必要がある。

引き続き、市町村や観光事業者など、様々な主体と連携・協働して観光振興施策を推進し、平成25年度目標を達成した項目についても、さらなる向上を目指し、取り組んでいく必要がある。

## 大柱1「魅力ある観光地の形成」について

神奈川には、横浜・鎌倉・箱根という国際観光地以外にもポテンシャル（潜在力）のある魅力的な観光地が数多くある。このような地域の中から、海外にも強力に発信できる「第4の国際観光地」を創出する「新たな観光の核づくり」のように、地域の先進的で魅力的な構想を県が認定し、その構想の実現に向けて継続的に支援をする取組を進めている点は評価できる。

一方、観光客のうち、特に宿泊客の増加を図ることが課題となっているため、多彩な観光資源に恵まれた「神奈川」の特徴を活かし、新たな観光商品の開発やPRの強化により、周遊型や滞在型の観光を促進することで、宿泊客の増加を図っていく必要がある。

また、さがみ縦貫道路の全面開通により、北関東や甲信越との交通アクセスが飛躍的に向上する。そうした機会を捉え、これらの地域からの観光客誘致に向けて、積極的な観光プロモーション活動を展開する必要がある。

## 大柱2「外国人観光客の誘客促進」について

国や近隣県などと連携した、外国人観光客の誘致に向けた取組に加え、台湾及びタイで知事の観光トップセールスを行うとともに、県内で外国人観光客誘致に取り組む行政や観光関係団体等を対象としたASEANからのムスリム観光客受入セミナーが実施された。日本への訪日旅行客が増加傾向にある国や地域を見据え、海外での効果的なプロモーションと県内の受入体制整備の両面から実施した点は評価できる。

富士山の世界遺産登録、東南アジア諸国の査証緩和、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催決定などにより、日本を訪れる外国人観光客の増加が期待される。そうした好機を捉え、引き続き海外の旅行会社やメディアの招請など、市場特性に応じたプロモーション活動を行うとともに、今後は観光案内表示の充実や外国人観光客のニーズが高い県内の主要観光地でのWiFi環境の整備促進など、受入体制のより一層の充実が必要である。

### 大柱3「観光関連産業の成長促進」について

県内産農産物など県産品の展示・販売を行う「かながわフェア2013 in台湾」及び「KANAGAWA WEEK in 台中(台湾)」を開催したことは、海外における県産品の販路拡大の可能性を高める取組として評価できる。

今後も国内外に対し、県産品の魅力を発信する様々な取組を進め、さらなる観光客及び観光消費額の増加に努める必要がある。

また、大学と連携した「かながわ移動観光大学」等を通じた観光分野の人材育成などにより、地域の活性化や観光産業の振興に引き続き取り組んでいく必要がある。